

大豆・小豆

○管内の生産状況（2022年）

大豆 ・栽培面積 2,315ha

・出荷量 4,051t

・生産者戸数 347戸

小豆 ・栽培面積 35ha

・出荷量 30t

・生産者戸数 26戸

* 栽培品種の特徴 *

【大豆】

ユキホマシ

大粒の品種です。生育期間が短く多収であるため、近年、道内で最も作付けが多くなっています。糖度が高く、豆腐用途での使用が多くなっています。

ツルムスメ

国内では数少ない極大粒品種の1つです。極大粒ならではの旨味があり煮豆、炒り豆、小袋販売、さらに味噌にも適した品種です。

トヨムスメ

煮豆や惣菜、味噌や豆腐などの原料として高い評価を得ており、岩見沢市や三笠市内の豆腐店で使用されています。

スズマルR

小粒品種です。小粒納豆といえば「スズマルR」といえるほど全国のシェアも高く、小粒納豆にしては少し大きめなのが「味がある」理由です。

【小豆】

エリモ小豆

道産小豆の多くがこの品種です。あん適性も優れており、実需から根強い人気があります。

* 生産・出荷の取り組み *

栽培履歴の記帳

生産者には栽培履歴・GAPの記帳・提出を義務付け、肥料・農薬の適正使用のチェックを行っています。

汎用コンバインによる収穫

収穫時期の10月は雨が多く、短時間での収穫作業が必要です。研究を重ねて水稻・小麦に使うコンバインを使えるようにし、品質の維持と省力化（コスト低減）に努めています。

良質豆生産のための自主規格

の設定と自主検査の実施

J A施設に出荷された生産物は、1つひとつ自主規格に基づいた自主検査を行い、適正な施肥や防除が行われたかを厳しく検査しています。

J A施設での共同調製

良質なものを出荷するため、生産物をJ A施設に集め、品種・品位ごとに転選機等で未熟粒や異物除去などの調製を行っています。

農薬の軽減

豆類は栽培中に雑草が生えやすく、雑草との闘いです。当J A管内では、機械除草（カルチ）の普及と活用方法の研究に努め、できるだけ除草剤を使わない栽培に取り組んでいます。

地産地消

大豆は当J A管内の豆腐や納豆の製造店で使用されており、地産地消に取り組んでいます。

